Information

「みゅうの足　パパにあげる」ドラマ化決定！！

山口隼人さんの著書「みゅうの足ぱぱにあげる」が、日本テレビ２４時間テレビの中で、ドラマとして放送されることになりました。

山口隼人さんこと小島康洋さんは、ひこうせんの新年会などのイベントに参加して頂いています。

皆さん是非ご覧して下さい。

放送予定　８月３０日（土）夜

ハチミツ　ローヤルゼリー　プロポリスの専門店

〒361-0073 埼玉県行田市行田 5-6
行田店 ☎048(550)4783　武州養蜂園

〒355-0328
埼玉県比企郡小川町大塚３２
Tel. ０４９３-７２-００３８（代）
Fax. ０４９３-７４-１３３８

広告募集

ひこうせんでは、企業広告の掲載をしております。ご希望の企業・団体の方は、ひこうせんまでご一報下さい。

お問い合わせ
CIL ひこうせん
Tel:048ー555ー1100

編集・発行

NPO法人CILひこうせん

〒361-0071
埼玉県行田市栄町 22-5
TEL. (048)555-1100
FAX. (048)555-1301

ひこうせん通信 vol.22

住所：〒３６１－００７１　埼玉県行田市栄町２２－５
ＴＥＬ：（０４８）５５５－１１００
ＦＡＸ：（０４８）５５５－１３０１
ＨＰ:http://www.tvg.ne.jp/npo-hikousen/hikousen.html
E-mail：cil-hikousen@tvg.ne.jp

絵：水上綾香

もくじ

表紙	1P
もくじ	2P
全体集会について	3P
ぶらり大庭紀行	4P
こころもよう	5・6P
People voice	7P
あっとキミコ	8・9P
各部署からの報告	10P
温故知新	11P
Information	12P

第二事業部新設！

7月 15 日より、熊谷に第二事業所を開設いたしました！これまでのひこうせん共々、よろしくお願いいたします。

⇒詳細は３Ｐにて

全体集会について

ひこうせんの活動をみなさんに分かりやすく知ってもらうために、毎月一回報告会を開くことにいたしました。

⇒詳細は４Ｐにて

全体集会

企画広報部　類地亜希子
金子昌代

６月２７日（金）、ひこうせん事務所で全体集会が行われました。

はじめに理事長の挨拶があり、各部署からの報告と連絡を各部署のみんなから熱く語ってくれました。次に小山内美智子さんの本「わたしの手になってくれたあなたへ」を類地さんと冨田さんが朗読してくださいました。皆が感動して、涙を流している人もいました。最後に、大塚さんが終わりの言葉を言ってくれました。毎回、第３週金曜日に行われる予定です。多くの皆さんの参加をお願いします。

集会の全体写真

理事長の挨拶

企画広報部の連絡

今泉さんが作品の
説明をしています。

類地さんが本の
朗読をしている様子

大塚さんが終わりの
挨拶をしています。

新企画

ぶらり大庭紀行 IN 深大寺

レスパイト輪の利用者の大庭昭さんが、レスパイトを自分の行きたいところへ行っています。その様子を今回から、みんなに報告してくれます。

第１回目は、東京都にある深大寺に行ってきたことを報告してくれました。

今回、深大寺はヘルパーの協力を頂きまして、花曇の春の穏やかな日に訪れました。吹上駅から電車に乗って、新宿駅で中央線に乗り換え、三鷹駅で下車をいたします。バスだと25、6分。タクシー20分程で深大寺につきます。

深大寺は、桜の名所としても知られております。また、深大寺といえば蕎麦が大変有名です。この付近では、湧水が豊富で、その澄んだ清らかな真水で蕎麦を作ることが出来ます。だから美味しい蕎麦になるのかもしれませんね。また、この寺の周りは大変緑が多く、木立の森の中にお寺は囲まれております。寺の裏側にでますと、まだ武蔵野の面影を残す雑木林が多少なりとも残っております。時折、鳥の鳴く声が聴こえてまいります。深大寺は長い歴史は中に脈々と引き継がれて静かに時を刻んでおります。

この深大寺は大変古いお寺で奈良時代、西暦733年に満功上人によって開かれたと言われております。都内では浅草の浅草寺についで2番目に古いお寺だとも聞いております。私が訪れた時は、花見の頃の賑やかさも去り、桜も葉桜の様相をしてまいりました。また、遅咲きの八重桜や枝垂れ桜が花を散らしておりました。私がこの時期を選んだのも、静かな中でゆっくりと見学をしたかったからです。

今日一日ヘルパーさんにはお世話になりました。心から厚くお礼申し上げます。

大庭昭

※次回は高尾山に行って来た様子を報告して下さる予定です。

こころもよう

<近況　あれこれ>

今泉　忍（いまいずみ　しのぶ）

◎小説「のぼうの城」を読んでいます。登場人物それぞれがユニークで、特に「のぼう様」こと主人公の成田長親は、今までの歴史小説にはなかなか登場しなかったキャラクター。私の大好きな映画[フォレスト・ガンプ]とも重なり、まさに現在社会にこそ求められる要素をたくさん持ち合わせているような気がします。また小説の随所に、佐間、持田、長野などの名前が登場します。古い時代の風景が偲ばれ、郷土に対する想いを新たにしました。

◎「もうひとつの美術館」に行ってきました。栃木県の山中にある廃校をそのまま活用した美術館で、どこかで見たなつかしい昭和の風景です。当日は、奈良のたんぽぽの家など、障害者アートの先駆的な作業所からの作品が多数展示されていて、作品から醸し出される迫力を感じました。モダンなギャラリーでの展示も悪くないですが、こうした空間そのものを全身で感じることで、鑑賞のみならず購買へのアクションへとつながるのでしょう。

◎熊谷「さくらめいと」での就労移行支援のシンポジウムに行ってきました。スワンベーカリー他、障害者の就労に対して様々な取り組みをはじめ、実績のレポートを聞き、来年４月に自立支援法への移行を予定しているデイケアこころとしても今後の大きな課題を実感しました。

<デイケアこころの販売＆お知らせ>

７月　１５日（火）みらい販売　１１：３０～１３：００
　　１６日（水）～鴻巣ストークでのアート展での販売
　　１８日（金）市役所販売　１３：００～１５：００
　２５日（金）やすらぎ販売　１１：３０～１５：３０
　　２９日（火）みらい販売　１１：３０～１３：００

●７／２６（土）鴻巣のカフェ「ストーク」で、カリンバ演奏の素晴らしいコンサートがあります。チケットがまだまだ残っていますので、希望の方は本部までご連絡ください（お願いしま～す！！）詳しいチラシは通信に同封してあります。

チケット１５００円

１７：００～１９：００に時間が変更となりました。

＊同日１４：００～１５：３０ワークショップ「ひょうたんランプを作ろう」が開催されます。ワークショップの参加者はコンサートが無料になりお得です。こちらもぜひどうぞ。予約は本部企画広報部まで。

＊ストークのＨＰ　http:www.tcat.ne.jp/～stork

＜トピックス＞

企画広報部　類地亜希子
金子昌代

●バスツアーの下見で、「たくみの里」に行ってきました。

６月５日（木）、日帰りバスツアーの下見で、群馬県みなかみ町にあるたくみの里に行きました。たくみの里にはそば打ちやガラスの模様付けなどのたくさんの体験学習が出来る所があり、すごく面白そうだなと思いました。今度は８月２５日にたくさんの人達と参加できることを楽しみにしています。

たくみの里の観光案内図！

金子さんがコップに模様を付けている様子

たくみの里で金子さん＆田島さんのツーショット

●「もうひとつの美術館」に行ってきました。

６月２５日に、栃木県の矢板にある「もうひとつの美術館」に行ってきました。ここは、東北自動車道宇都宮ＩＣから１時間くらい走った深い山の中にある廃校をそのまま利用した美術館です。奈良のたんぽぽの家などから素晴らしい作品の数々が展示されていました。また、ミュージアムショップ（？）ではアート作品を上手く商品化したお土産がたくさん販売されており、デイケアこころでもこうしたお手本を参考に、今後も楽しいアートの展開を考えていきたいと思います。

もうひとつの美術館の外観

みんなで記念写真

ミュージアムショップのアート作品です！

＜羽生イオンの黄色レシートをください！＞

毎月１１日は、イオンの「黄色レシートの日」。ご存知でした？
ひこうせんではイオンのレシートで毎月１１日の付のものを集めています。このレシートは、金額の１%がひこうせんの活動資金になりますので、羽生イオンをはじめ、イオンの日に買い物をしたときは、レシートをご寄付ください。なお、直接羽生イオンにある投票ボックスにレシートを入れていただいてもかまいません、白いレシートでも有効ですのでよろしくお願いします。

レシートを投票ボックスに入れている様子

People voice

島田悟朗（しまだごろう）
昭和３６年９月１３日
A型
東京都荒川区出身
３６歳のとき、脳内出血になり、今に至る。

今回は、５月から、なかまの家で生活をし、デイケアのメンバーとして、ひこうせんで仕事をしている島田悟朗さんを紹介します。
ひこうせん事務所で企画広報部の大塚がインタビューしました。

なかまの家に入居するきっかけを教えて下さい。
以前、なかまの家で生活をしていた知り合い方に紹介されて、入居することになりました。なかまの家に来る前は、病院と施設で１０年間生活をしていました。

なかまの家での生活はどうですか？
上手く言えないけど、なかまの家は、とにかくアットホームで、笑いが絶えないところが良いです。また、食事が楽しいです。

これからやりたいことを教えて下さい。
所帯を持って生活をしたいです。大塚さんのようになりたいです。

ひこうせんに何か言いたい事はありますか？
まだ、わからないことだらけなので、良く教えて下さい。
よろしくお願いします。

あっと！ キミコ

自らのありのままのいのちをいかして生きる

遠藤滋さんの生き方

齋藤　貴美子（副理事長）

「えんとこ」というドキュメンタリー映画があります。

描かれているのは、遠藤滋さんという脳性麻痺の人とその介助者たちの日常です。残念ながら私はまだ、その映画を見ていません。「えんとこ」とは、東京世田谷の住宅街にあるマンションの一室２ＤＫ、遠藤滋と介助の若者達の居場所。遠藤の居るところであり、縁のあるところ、という意味で「えんとこ」と名付けられた。そこには関わる人たちを生かし合う日々の暮らしがあります。

支援費制度を事業化した際の、基本的に遠藤さんは、支援費制度には反対の立場をとっていましたが、生きる上での必要性から、事業所を設立することになったようです。そうした事業所の『結・えんとこ』の設立にあたっての支える会臨時代表の文章によれば、

「1985 年、本人は白砂巌氏と『だから人間なんだ』を編集し、これを出版。このことをきっかけに、障害のあるなしにかかわらず“自らのありのままのいのちをいかして生きる”ことが最も自然な生き方だと気づくことになりました。以来、本人は介助を受けることをひとつの具体的な契機としていかし、そうした事実を伝えたいと願ってきました。

「えんとこ」の特色ある性格は、多分に本人のこの強い願いによって形づくられたともいえるでしょう。“いのちをいかし、いかしあう”ことを感覚として共有すること…。このことが、今だからこそ求められているのではないでしょうか。

しかしながら、これは単なる個人的な関係を深めるだけでは全うできないことを、わたしたちは知っています。ぜひとも“たがいの固有のいのちをいかし、いかしあえる拠点”としての、社会的な性格を持った共生住宅、「ケア生活館」の建設を自分たちの力で実現させたい。こうした生活拠点を持ってこそ、わたしたちは初めて自らの意志でそれを確かなものにし、さらにそれをネットワークとして広げてゆくこともできるでしょう。

たしかに、それは容易なことではないかも知れませんが、一定の数のひとたちが心を合わせ、本気になってこれに取り組みさえすれば、決して不可能なこととはいえません。それこそが既存の社会や政治のあり方からの、わたしたちひとりひとりの全面的な自立といえます。時の政治によって生活が振り回されることも、そこではありえないのです。

いまの政治家や官僚たちに、この先いったい何が期待できるといえるでしょうか？」

としるされています。

私が、「ひこうせん」を設立したいと、強く願ったのも、こうした「人と人とのいのちを生かしあって生き」たかったからに他ありません。「えんとこ」が作り上げる人間の関係と「ひこうせん」のそれとは、同じではないかも知れません。むしろ、ひこうせんでしか作れない「人と人とのいのちを生かしあって生きる生き方」を私たちは今まさに、作ろうとしているのです。

「えんとこ」の紹介に、かならず出てくる遠藤さんの詩をご紹介したいと思います。遠藤さんの人間性が良く表されています。

君が今やりたいことを、まっすぐに人に伝えながら、
出来ないことは、みんなに手伝ってもらって、堂々と生きてゆきなさい。
先回りして、人がどう思うだろうかとか、これはいけないことではないかとか、
勝手にひとりで考えてやめてしまう必要なんかないんだよ。
自分から逃げていては、何も始まらない、
そうして、自分が決めてやったことの結果を、
どんなことでもすべて自分で生かしていったら、
その時はきっと、いつの間にか、ますますすばらしい君になっているだろう。
それは、人に迷惑になるどころか、逆に人と人とが直接、
そのいのちを生かし合って生きる、
本当の人のあり方を、君に関わる全ての人に身をもって示して、
それを実現してゆくことになるんだよ。
だって、君はひとりで勝手に何かをやってゆくことなんてできないだろう？

（遠藤　滋「いのちの肯定に立つまでの私の歩み」より）

直木賞ノミネート作品　和田竜「のぼうの城」　引き続きテープお貸しします。

齋藤　貴美子

行田、忍城（おしじょう）が舞台で話題となっている「のぼうの城」をテープに吹き込みました。「のぼうの城」は、石田三成の水攻めの攻防戦を描いた作品で、随所に現在も残っている行田の地名が出てきます。行田市民にとっては、身近な内容で、また、今後映画化されたり、取り上げられる機会もあると思われますので、是非、本が読めない方に、知っていただきたいと思って、テープに吹き込みました。朗読は初めての素人で、しかも、このようなテープを吹き込む時の決まりも知らずに吹き込んでしまいましたので、お聞き苦しいと思いますが、前述のような主旨で作成しましたので、是非、多くの方に聴いていただければとお知らせします。

全部で裏表２時間テープが５巻の長時間ですが、主人公の「のぼうさま」も、面白いキャラクターで飽きずに聴けると思います。

ご希望の方は、ひこうせん齋藤貴美子まで。

各部署からの連絡

レスパイト輪より

日頃より、レスパイト輪をご利用ありがとうございます。
福祉有償運送に係る相談・通報窓口についてお知らせします。
協議会構成の市町では、利用者からの相談、苦情その他に対応するため、下記のとおり相談窓口を設けています。

記

福祉運賞運送にかかる相談窓口

熊谷市福祉部障害福祉課
TEL. 048－524－1111　Fax. 048－524－8790

深谷市福祉健康部障害福祉課
TEL. 048－571－1211　Fax. 048－574－6667

寄居町健康福祉課
TEL. 048－581－2121　Fax. 048－581－9160

※その他お住まいの市町村の相談窓口をご利用ください。

PAGからのお知らせ

田島（たじま）　隆宏（たかひろ）

梅雨の候、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。PAGも5年目を迎え、利用者の方々が増えてまいりました。

これからの派遣業務は、鈴木をチーフとして、鈴木、田島、田島の職場介助者、山本の４名でコーディーネートしていきます。

それによって、派遣専用電話を設けました。

派遣依頼の際は、こちらの番号へおかけ下さい。
宜しくお願いします。

PAG（派遣）　TEL. 048－558－0300

コラム

温故知新

障害者自立支援法の目的の１つとして、障害者の就労支援がある。

「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、民間企業で５６名以上の従業員を雇用している企業は、１．８％の障害者を雇用することになっている。このことを「法定雇用率」という。もし、この雇用率１．８％以下の企業の場合、国に毎月違約金を収めないといけないことになっている。

年々、この雇用率は上がってきているが、それは、決して一挙に障害者雇用が進んだわけではなく、全体の正規雇用者の人数が減少しており、分母が少なくなれば、当然に分子が同じでもその率が上がるからである。

「商売の神」として現在でも崇められている「福助」。

何故、福助が商売の神として崇められている理由として、福助は江戸時代に実在の人物であり、水頭症で知的障害もあったとされている。その為になかなか仕事に就くことができなかったが、ようやくに親の知り合いの呉服問屋へ丁稚奉公に出された。しかし、失敗ばかりしていた福助を見ていた主人は、ある時、福助に紋付・袴という当時の正装させて店先で「いらっしゃいませ」と大きな声で挨拶することを福助の仕事にした。それが評判を呼び、この店は大盛況になり発展されたとされている。

このことは、勿論、福助自身の努力もあるが、福助の適正を見抜いて挨拶の仕事を与えた主人の人事能力が優れていたと私は考える。

現在の障害者雇用の実態は、既存の仕事内容に適応できる者しか雇用されていない。でも、福助の主人のように福助の合う仕事を開発し、実践して成功させたことがこれからの障害者雇用を促進する上で最も重要視する点ではないだろうか。

記：木村浩章